

日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは 山田耕平 です

2013.11.1 No.133

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1
TEL 090-9973-0941
ホームページ
<http://yamadakohei.jp>



東日本大震災・原発被害を風化させない 福島県を現地視察 放射能汚染のいま…

復興・帰還への展望見えず 依然として深刻な汚染

十月二十七、八日の二日間、杉並区内の9条の会主催による福島県の津波被害・放射能汚染地域の現地視察が行なわれました。私も現地の状況を知るために参加しました。

視察では、放射能汚染により、これまで立ち入りが制限されてきた浪江町を中心に南相馬市や相馬市の津波被災地を訪問しました。

深刻な放射能汚染にさらされている地域では、依然として復興が進まず、東日本大震災発生直後のまま、時が止まったような状態でした。

浪江駅前では、持参した放射線量測定機の検出限界値（毎時9、999マイクローシーベルト）を上回る高濃度の汚染が確認されました。後日、現地の方に確認したところ、30マイクローシーベルト程度の汚染地域が点在しているとのことでした。



新聞販売所では、2011年3月12日付の新聞が山積みとなり、当時のまま、時が止まったようになっている。

街の水たまりを測定したところ検出限界値を超える汚染を確認



未だに多くの住民が仮設住宅で生活している（上）
瓦礫の持ち出しが出来ないため、被災した家屋等もそのままの状態が残っている（下）

被災地復興・原発事故収束に全力を

震災から二年半が経過するなか、深刻な放射能被害は復興と住民の帰還を妨げています。

未だに避難住民は仮設住宅での生活を余儀なくされ、住宅の確保も進んでいません。一刻も早く、国をあげての原発事故の収束と被災地支援の強化が必要です。

福島県九条の会「現地視察」事務局の協力

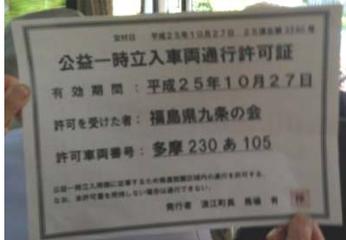
今回の視察は現地で活動する九条の会の方々の協力で実現しました。原発被災地の実相を伝えるために、全国からの現地視察の要望に対応しており、被災地の実態を知ること、一人ひとりが出来ることを考えてほしいとのこと。東日本大震災を風化させず、復興支援のために私たちに何が出来るのか、考えることが求められます。

ガイドなどの申し込みはこちら

- ◆相馬市九条の会
0244-36-5533 中島ストア内
- ◆福島高教組
024-523-3866 教育会館内
- ◆「被災地福島の旅」実行委員会
0244-26-8437 野馬土（NPO法人のまど）内

現地の実態を写真で紹介 津波被害・原発被害の現在の状況とは…

遠く福島第一原発の鉄塔が見える。原発からの距離は7 km程度。空間放射線量は毎時0.35マイクロシーベルト(右)



安倍首相のIOC総会での原発事故に関する発言以降、浪江町への立ち入り規制が厳しくなったとのこと。立ち入りには参加者全員の氏名が必要となる。現地の住民は「放射能被害の実態を知られたら困るからなのか?」と不信の声を上げている(上)



沿岸部は津波被害の爪痕が生々しく残る。道路が寸断され、橋が流されている場所も多い。見渡す限り、外来種の背高泡立草(生命力が強い)が生える(右)

JR常磐線小高駅は廃止され、駅周辺の自転写置き場には高校生の通学用自転車が原発事故当時のまま置いてある。住民は「持ち主の帰りを待ち続けているようだ…」と話す。空間放射線量は毎時0.23マイクロシーベルト(右)



希望の牧場にて。空間放射線量は毎時2.8マイクロシーベルト以上(右)



原発被災地の状況を写真で紹介します。カラー写真はホームページをご覧ください。

育メン日誌

地域の人に支えられて!

区議会議員をしていると土日は、ほとんど休みを取ることが出来ません。地域の行事やその他諸々の活動が重なるため、ほとんど出ずっぱりになります。

そのため、保育園が休みの休日は、妻と子どもが丸一日一緒に過ごすことになるのですが、体力のついてきた3歳の息子と産まれたばかりの赤ちゃんの面倒を同時に見るのは大変なことです。

そうした時に大変心強いのが、地域のみなさんのご支援です。保育園の保護者仲間からの支援の申し出や外出へのお誘い等、

大好きなSばあばと妹の咲希ちゃん



本当に助けられています。特に地域のSさんは、人見知りが始まった息子も大好きなばあばで、いつも面倒を見てもらっています。地域のみなさんに支えられて、私たち家族は生活しています。いつも、本当にありがとうございます。

「希望の牧場」で涙の訴え 今なお、東京へ電気を送り続けている…

「希望の牧場」(浪江町 原発から14 km)では、牛の殺処分を拒否し、放射能に汚染された牛を原発事故の証人として飼育しています。牧場管理者は、涙ながらに原発への怒りを語りました。「福島原発は東京に電気を送ってきた。今も火力発電で送り続けている。東京五輪が騒がれているが、その電気がどこから送られるのか、考えてほしい」。原発被災地からの心の叫びです。



「希望の牧場・ふくしま」の管理者 吉沢正巳さんが当時の状況を説明。詳しくはホームページをご覧ください。『希望の牧場』で検索可能です。



福島県には超大型火力発電所が4つあり、原発事故後、フル稼働している。様々な場所から発電所の煙を見ることができる。